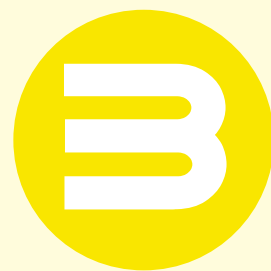


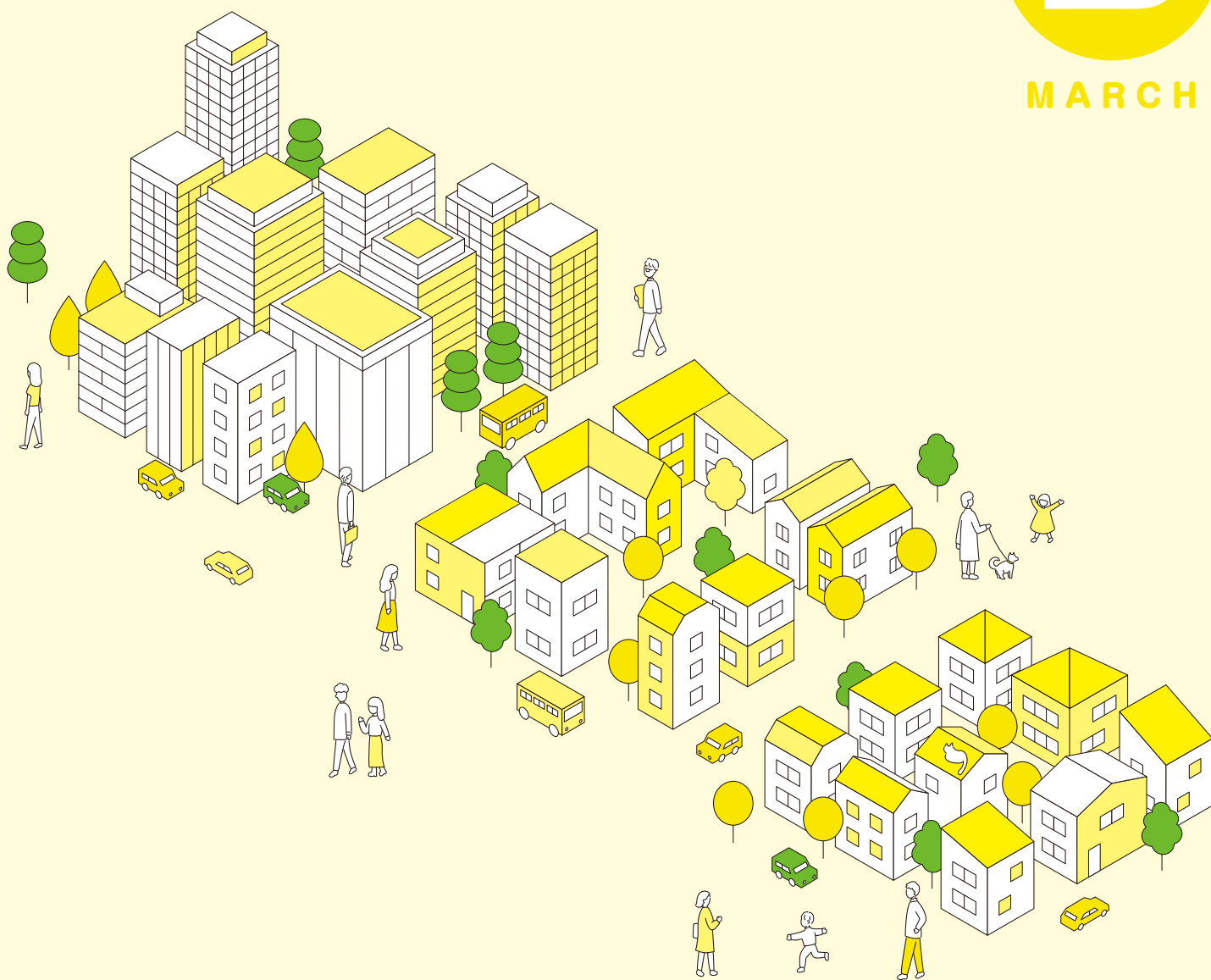
JAPAN FIRE EQUIPMENT INSPECTION INSTITUTE

検定協会だより

令和8年3月 第543号



MARCH





令和8年3月号

<https://www.jfeii.or.jp>

目次

巻頭のことば

1 「安全で安心な暮らしやすいまち」さがみはらの実現に向けて

相模原市消防局長 三澤 誠

国際会議報告

4 ISO TC21/SC2 シンガポール国際会議報告

SC2 (ヤマトプロテック株式会社) 渡邊 良夫

協会情報

8 一般公開のお知らせ

日本消防検定協会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

11 ベトナム社会主義共和国公安省職員に対する「火災予防技術専科研修」の実施について

企画研究部 企画研究課

おしらせ

14 令和7年度ケーブルテレビ等による住宅防火広報事業について

住宅防火対策推進協議会
(一財) 日本防火・危機管理促進協会

18 「検定時報」の電子媒体での発行について

企画研究部 情報管理課

20 可搬消防ポンプの計画的な更新についてのお願い

一般社団法人日本消防ポンプ協会
小型部会

25 令和8年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

26 職員採用情報 [新卒]

総務部 庶務課

27 有効期限を経過した受託評価品目

28 協会通信・業界の動き

32 新たに取得された型式一覧

34 検定・性能評価・受託評価数量 (令和8年2月)

巻頭のことば

「安全で安心な暮らしやすいまち」さがみはらの実現に向けて

相模原市消防局長

三澤 誠



相模原市は、昭和29年11月20日、全国で453番目、神奈川県下で10番目の市として誕生し、平成22年4月、戦後生まれの都市で初めて政令指定都市となり、人口は72万人を有しています。神奈川県北西部に位置し、北は東京都、西は山梨県と接しており、市内にはJR東日本と私鉄の6つの鉄道路線のほか、中央自動車道や圏央道のインターチェンジがあり、交通アクセスの良さを背景に物流拠点としても注目され、大きく発展を続けており、今後のリニア中央新幹線の開業に伴い、リニア駅・橋本駅周辺地域を中心に、首都圏・東海地方を繋ぐ「日本中央回廊」の一角を担う都市へと変化していく、大きな転換点を迎えています。一方、市域の西側へと目を向けますと、県民の水がめである相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖や県内最高峰である蛭ヶ岳をはじめとする清流を育む広大な森林などの恵まれた自然環境を有し、登山やキャンプなどのアウトドアを楽しむために多くの方が訪れる「都市と自然のベストミックス」した魅力のある都市です。

本市の消防組織につきましては、令和7年4月1日現在、消防局1局2部6課1室4消防署15分署1出張所1派出所、消防職員806名、消防団1団6方面隊34分団106部、消防団員1258名という体制で、一丸となり消防行政に取り組んでおります。

火災予防につきましては、子どもたちに将来にわたる防火意識を持ってもらうため、平成23年度から小学校3年生及び4年生を対象とした「ファイヤースクール」を実施しており、「自分で自分の身を守れる子どもになる」をスローガンとして、火災の危険から身を守る方法や水消火器による消火訓練、119番通報、煙中避難訓練等の体験型授業を実施しています。また、住宅防火対策としまして、住宅用火災警報器の設置義務化から15年以上が経過し、今後、電池切れや電子部品の劣化等による故障が増加することが予測されることから、「知ってほしい！設置後10年 交換です！！住宅用火災警報器」をキャッチフレーズに広報活動に取り組んでいます。さらに、今年度、全国の消防機関で

検定協会だより 令和8年3月

初めてMixed Reality（複合現実）という新しい技術が使われた消火体験機材を導入し、10月から運用を開始しています。専用のゴーグルとコントローラーを使用することで、投影した現実世界に仮想の火災を発生させ、仮想の消火器を操作して、安全に初期消火を体験することができるため、事業所の消防訓練や、地域の自主防災訓練で活用し、住宅防火対策を推進しています。

次に、災害対応につきましては、令和7年2月26日に岩手県大船渡市で発生した林野火災に神奈川県大隊の一員として本市からも部隊を派遣し、24時間体制での警戒や消火活動を行いました。活動は方面別に担当部隊を配置し、延焼阻止線の設定や背負い式消火水のうを装備し、急こう配な斜面を登りながら消火活動を実施しました。夜間の監視や火災の全容把握には課題もありましたが、熱源探査や直接消火に効果的な手法を取り入れ、被害拡大の防止に全力で努めました。

今後は、南海トラフ地震や首都直下型地震、さらには風水害の発生リスクが高まる状況の中、広域的な支援体制の整備と強化が一層求められています。そのため、隣接する市町村の消防機関や関係機関との連携を深めるための訓練を継続的に実施し、協力体制の充実を図ってまいります。さらに、本市が被災した場合に備え、主要な拠点において宿営を伴う受援訓練を行うことで、迅速かつ効果的な支援体制の構築を目指してまいります。

次に、救急につきましては、高齢化の進行、市民意識の変化や感染症の流行などにより、救急出場件数は右肩上がりの増加傾向を示し、令和7年中の救急出場件数（速報値）は45,194件（前年比855件増、1.9%増）、搬送人員（速報値）は38,363人（前年比1,118人増、3.0%増）となり、救急出場件数、搬送人員ともに過去最多となりました。現状を踏まえ、消防隊で臨時に救急隊を編成するとともに、令和6年度に実施した過去の救急出場記録データの詳細分析・シミュレーション分析の結果をもとに、救急隊の増隊を進めています。また、救急隊専用タブレットの導入による業務の効率化（DX化の推進）など、救急隊員の適正な労務管理を推進し、市民に対し救急業務を安定的かつ持続的に提供できる体制の確保や増加する救急需要への的確な対応として、救急業務の高度化も併せて推進してまいります。

このような状況において消防局では、多様化する市民ニーズや技術の進展に伴い、常に新たな知識や技術を習得する機会が必要であることから、消防大学校・消防学校等の教育機関をはじめ、各種専門研修等への派遣を積極的に行うとともに、職員へのフィードバックの場を設け、組織還元を活発化しております。また、職員がやりがいを持って働き続けられるよう、様々な業務に挑戦できる制度を設け、キャリアビジョンを描ける

環境を整備しています。

引き続き72万市民の皆様が、安全で安心して暮らせるまちを維持するため、本市の消防職員全員が一丸となり、あらゆる災害に対し、迅速・適切に対応できる消防・救急体制を強化するとともに、消防団を中核とした地域防災力の向上を図り、誰ひとり取り残さないための取り組みを確実に進めてまいります。

結びに、貴協会のますますの御発展、会員の皆様の御多幸を祈念し、巻頭のことばとさせていただきます。



ISO TC21/SC2シンガポール国際会議報告

SC2 (ヤマトプロテック株式会社)

渡 邊 良 夫

1. はじめに

ISO/TC21 (消防機器等に関する専門委員会) では消防設備等に関する国際規格の策定を行っている。また、TC21の小委員会であるSC2では、消火器に関する規格 (技術基準及び設置基準等) の策定を行っている。TC21及びSC2へは、昭和54年11月の米国フェニックス会議から審議に参画しており、国際規格の策定過程等において、国際規格案と国内規格との比較検討、国際規格案に基づく実験等を行い、建設的な意見を提出してきたところである。

(1) WG7 (火災の分類)

「火災の分類」について審議するWG7は、2022年2月の定期見直し投票により、「確認 (継続)」が決定され、同年の国際会議において、TC21事務局より新規カテゴリーとして「リチウムイオン電池火災」を検討する指示を受けた。SC2において、2023年にWG7コンビーナとエキスパートが決定し、2024年1月より、国際会議・作業部会 (Web方式) を開催し、協議を進めてきた。2025年11月現在、FDIS (Final Draft International Standard : 最終国際規格案) 投票期間中である。

ISO 3941 (火災の分類) は、FDIS投票を経て、発行される予定である。

(2) SC2/WG1 (手提げ式消火器)、WG3 (車輪付き消火器) は現在、休止中である。

2. シンガポール会議結果の概要

(1) SC2/WG7 (火災の分類)

ISO 3941は、FDIS投票期間中のため、審議は無し。

(2) SC2/WG1、WG3

SC2はシンガポール国際会議において、ISO 3941の「クラスL : リチウムイオン電

池火災」の火災分類の追加にともない、ISO 7165（手提げ式消火器-性能及び構造）及びISO 11601（車輪付き消火器-性能及び構造）の改訂見直しとして、CEN（欧州標準化委員会）におけるリチウムイオン電池火災試験プロトコルに関する作業を踏まえ、CEN規格の発行後にISO規格の策定を検討することとなる。また、フッ素フリー消火薬剤への移行に対応するため、ISO 7165及びISO 11601の改訂が必要かどうか検討することになる。今後、WG1及びWG3（あるいは、WG1とWG3を統合した新規WG）が再度立ち上がり、議論に着手される見込みです。

以下、11月11日にシンガポールで開催されたSC2会議結果となります。

【SC2 シンガポール会議 議事録】

1. 日時 2025年11月11日（火）13：00～14：30
2. 場所 セントラルタワー3、18階 ステートルーム シンガポール
3. 出席者
議長：Thilthorpe氏（BSI）、事務局：韓国（欠席）
出席国：英国、フランス、ドイツ、中国、韓国、日本、ロシア
日本の出席者：TC21事務局桜井氏、渡邊
4. 資料
 - (1) ISO-TC21-SC 2_N501_N_501_SC2_Draft_Agenda_2025_Singapore_Meeting
 - (2) ISO-TC21-SC 2_N515_N515_ISO_TC21_SC2_London SC2 Secretariat report
 - (3) ISO-TC21-SC 2_N505_N505 2024 ISO TC21 SC2 Meeting Resolutions
5. 議事
※WG7（火災分類ISO 3941に充電式リチウムイオン電池火災を追加）は現在投票期間中のため、議論は無かった。
 - (1) 開催宣言
議長のThilthorpe氏より開会宣言された。
 - (2) 主催者の挨拶
議長より挨拶があり、今回、国際事務局担当が急遽欠席となった報告があった。
 - (3) 参加者の確認
各自、自己紹介を行い参加者の確認をした。
 - (4) ISO業務における倫理及び行動規範の重要性
議長よりISO業務の行動規範が記載されたHPを紹介し、各自参照するよう指示

があった。

(5) 議事次第（案）の承認（N541）

議事次第（案）を検討し、承認した。

(6) 決議事項編集委員の指名

議長がフランスを指名し、了承された。

(7) 国際事務局報告（N504）

①昨年ロンドン会議以降の1年間の活動内容について、議長から説明があった。

各国から異論、意見はなく、活動履歴について合意した。

②現在SC2のメンバーはPメンバー18カ国、Oメンバー20カ国であること、前々

回のベルリン会議から7年経過していることがOh氏より報告された。

(8) 作業部会報告（WG7：ISO 3941 火災の分類）

SC2/WG7は、ISO/FDIS 3941は10/22～12/17が最終投票期間となったため、議論は無し。（投票期間中は議論してはいけないルールになっている）

12/17に投票結果を各国に回覧され、スペルチェックの後、発行される予定。

(9) ISO/TS 11602-1&2（Technical Specification：技術仕様書）

議長は、体系的レビューで両規格が確認されたものの、ISO 11602-1（手提げ式及び車輪付き消火器-選定と設置）を採用したISO加盟国が5か国も無かったため、ISO規則ではISO 11602-1を廃止する必要があると指摘した。

また、ISO/TS 11602-1とISO 11602-2（手提げ式及び車輪付き消火器-点検及びメンテナンス）は関連しているため、ISO 11602-1を維持する必要があると指摘した。これを確認するためのCIB（Committee Internal Ballot：委員会内投票）投票（N511）は、19の加盟国が規格の維持を承認して終了した。

(10) 今後の作業項目

①現在、EN3-7～11の改訂作業中。改訂が終わり次第、各国に情報回覧される。

②回覧結果を鑑みて、WG1（手提げ式消火器）とWG3（車輪付き消火器）に関する新規改訂作業項目について協議することになった。

WG1とWG3を一括してWGを新設するか、従来通り分けてWGで協議するか。

(11) 次回の分科会会議

次回のISO/TC21/SC2会議は、2026年9月14日～18日、天津（中国）においてISO TC21会議が開催される模様。それに合わせて、SC2会議も開催される可能性がある。

(12) その他

特になし。

(13) 決議事項の承認について

今後のSC2の活動方針を協議して次の2項目について合意した。

[決議事項1_TC21/SC2_シンガポール2025]

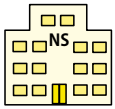
ISO/TC21/SC2は、ISO 11602-1:2010の体系的レビューにおけるコメントと投票結果及びN511の維持に関する投票に留意し、この規格をさらに5年間確認することを決議した。

[決議事項2_TC21/SC2_シンガポール2025]

ISO/TC21/SC2は、ISO 11602-2:2010の体系的レビューにおけるコメントと投票結果を踏まえ、この規格の有効期間を5年間延長することを決議した。



ISO TC21/SC2会議の様子



一般公開のお知らせ

日 本 消 防 検 定 協 会
消防庁 消防大学校・消防研究センター
一般財団法人 消防防災科学センター

日本消防検定協会、消防庁消防大学校・消防研究センター及び一般財団法人消防防災科学センターでは、令和8年度の科学技術週間にあたり一般の方々に試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具等や消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記のとおり行いますので、皆様お誘い合わせの上ご来場くださいますようお願い申し上げます。

1 日 時

- (1) 実開催 入場無料

令和8年4月17日（金） 午前10時から午後4時まで

- (2) 動画公開

令和8年4月10日（金）～20日（月）

消防研究センターホームページ (<https://nrifd.fdma.go.jp/>)

2 実開催場所（同一敷地内にあります。）

日本消防検定協会（東京都調布市深大寺東町4-35-16）

消防大学校・消防研究センター（東京都調布市深大寺東町4-35-3）

3 公開内容

- (1) 【日本消防検定協会】

ア 実開催で予定している公開内容

住宅用消火器による消火実演、消火器の操作体験、屋内消火栓の操作説明及び操作体験、住宅用防災警報器の展示及び実演、各種消防用機械器具等の展示、消防機器の検定制度についてのビデオを放映

イ 動画公開で予定している公開内容

日本消防検定協会について、検定制度と検定の方法、検定品目の紹介、受託評価業務の紹介、実演型式試験

(2) 【消防大学校・消防研究センター】

ア 実開催で予定している公開内容

消防車両の展示、軽油の燃焼実験、水陸両用バギー、石油タンクの安全性に関する研究開発の紹介、原因調査室の業務紹介等

イ 動画公開で予定している公開内容

消防大学校での教育訓練、大型石油タンクの地震時底板浮き上がり応答解析、高発泡装置を用いた泡消火実験、土砂災害における搜索救助活動の安全性を向上させるための研究の紹介等

(3) 【消防防災科学センター】

ア 実開催で予定している公開内容

避難所HUG（風水害版）、消防力適正配置等調査、近年起きた災害等の被害や災害対応の状況を写真などで紹介

イ 動画公開で予定している公開内容

過去の災害から学ぶ（災害対応を体験した市町村長等の体験談）、防災訓練を学ぶ（各地で取り組まれている防災訓練の様子・防災図上訓練の解説）、災害基礎知識、防災対応知識、被災した時の各種支援、防災紙芝居

4 交通機関

(1) J R 中央線・京王井の頭線吉祥寺駅南口 6 番乗り場

行き先：野ヶ谷経由「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行き

下車：消防大学前

(2) J R 中央線三鷹駅南口 8 番乗り場

行き先：「野ヶ谷」行き

下車：消防大学前

(3) 京王線調布駅北口 11 番乗り場

行き先：晃華学園東・杏林大学病院前経由「三鷹駅」行き

下車：中原 3 丁目 徒歩 5 分

5 問い合わせ先

■日本消防検定協会 企画研究部情報管理課

0422-44-7471(代) <https://www.jfeii.or.jp/>

■消防研究センター 研究企画室

0422-44-8331(代) <https://nrifd.fdma.go.jp/>

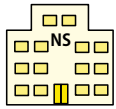
■一般財団法人消防防災科学センター 総務部

0422-49-11113(代) <https://www.isad.or.jp/>



公開内容（日本消防検定協会）

項目	概要	場所・時間
住宅用消火器の消火実演	住宅用消火器による天ぷら油火災の消火実演を見学できます。	消火散水試験場 実演：①11:30 ②14:30
消火器の操作体験	訓練用消火器を用いて目標物に放射する消火体験ができます。	消火散水試験場 操作体験・消火体験 随時 (12:00～13:00は除く)
屋内消火栓の操作説明及び操作体験	屋内消火栓の構造説明と操作実演を行います。また、屋内消火栓を用いて目標物に放水する消火操作を体験できます。	スプリンクラー消火試験場前屋外
住宅用防災警報器の展示及び実演	住宅用防災警報器を紹介します。また、無線式の住宅用防災警報器が連動する様子を見学できます。	情報館1階 実演：随時
各種消防用機械器具等の展示	消火器、スプリンクラーヘッド、火災報知設備、消防用ホースなど、各種消防用機械器具等を紹介します。	情報館1・2階 展示室 随時
ビデオ放映	日本消防検定協会及び消防機器の検定制度についてのビデオを放映します。	情報館3階 会議室
休憩所	コーヒー、お茶をセルフサービスで用意します。	情報館3階 会議室



ベトナム社会主義共和国公安省職員に対する 「火災予防技術専科研修」の実施について

企画研究部 企画研究課

日本消防検定協会では、ベトナム社会主義共和国公安省（以下「PDFR」という。）職員に対して、令和5年に「火災予防技術基礎研修」（以下「基礎研修」という。）を消防庁及び一般社団法人全国消防機器協会（以下「機器協会」という。）と協力して実施しました。令和6年度から始まった「火災予防技術専科研修」（以下「専科研修」という。）は、令和7年度も引き続き実施いたしました。

1 日程・参加者等

①消火器研修プログラム

消火器及び消火器用消火薬剤を対象とした研修

〈日 程〉

令和7年12月8日（月）～12月12日（金）

〈参加者〉

PDFR グエン・フック・フン少佐

同 レ・チュオン・ザン少佐

②警報設備研修プログラム

火災報知設備の感知器・発信機、中継器及び受信機並びに住宅用防災警報器を対象とした研修

〈日 程〉

令和8年1月26日（月）～1月30日（金）

〈参加者〉

PDFR グエン・ダン・ルアン少佐

同 グエン・ヴァン・ハイ少佐

〈視察研修〉

能美防災株式会社（能美テクノリウム メヌマ）

ニッタン株式会社（大利根工場）

2 専科研修カリキュラム

専科研修のカリキュラムは、次表のとおりです。

表 専科研修カリキュラム

研修科目
機能・構造作動原理等
規格や基準の構成、内容等
試験方法、判断基準等
工場等視察

各プログラムでは視察研修を除き、当協会の職員が講師を務めました。

3 研修の様子



開講式
当協会理事の挨拶



消火器研修プログラム
講義の様子



消火器研修プログラム
試料の作製の様子



警報設備研修プログラム
デモ機を用いた解説の様子



警報設備研修プログラム
騒音計の確認の様子



閉講式
研修生の挨拶

4 終わりに

平成30年10月に総務省とPDFRとの間で締結された覚書に基づき、令和元年に基礎研修と専科研修からなる「火災予防技術研修」が消防庁からPDFRに提案されました。その後、新型コロナウイルス感染症やベトナム国内での火災事案の発生、ベトナム国公安省消防救難警察局の組織改編など紆余曲折のあった本事業でありましたが、今年度は専科研修の2つのプログラムで計4名のPDFR職員を受入れ、無事に終えることができました。

研修生からは、本事業が日本とベトナム国の火災予防制度を比較する上でとても参考になったこと、そして、日本の規格・認証制度を参考にベトナム国内の火災予防制度を改善していきたい旨の発言があり、覚書に基づく取り組みとしての成果が得られたと考えます。

当協会では令和8年度以降もベトナム国との消防分野における協力関係の強化に寄与できるよう、消防庁、機器協会及び機器協会の会員企業と連携しながら、取り組んで参ります。

検定協会だより 令和8年3月

令和7年度ケーブルテレビ等による住宅防火広報事業について

住宅防火対策推進協議会
(一財)日本防火・危機管理促進協会

住宅防火対策推進協議会が行っているケーブルテレビ等による住宅防火広報事業は、消防本部が実施する消防フェスタや消防フェアなどのイベントの機会に住宅用防災機器等について知っていただき、さらに地元のケーブルテレビ局等とタイアップして、住宅防火を啓発するテレビ番組を制作放映して、住宅防火の普及啓発を広報するものです。

この事業は、平成27年度から実施しており、令和7年度は昨年度に続き、多数の住民の方々にお集まりいただく消防フェア等のイベント3か所での実施となりました。

◎山形県東根市消防本部

令和7年9月28日（日）に実施しました、東根市は、マスター・オブ・セレモニー役の山形弁研究家のダニエル・カールさんが、山形県教育委員会英語指導主事助手として県内の中学校・高等学校を全て回りながら、3年間英語教育に従事した際に勤務したことがある懐かしい場所です。サクランボやリンゴをはじめとする果樹の栽培が盛んでサクランボの生産量は全国の市町村1位、当日はた〜んとほおバルフェスタ実行委員会事務局（東根市観光観光物産協会内）主催の「令和7年度た〜んとほおバルフェスタinひがしね2025」が開催されていました。

好天に恵まれ多くのグルメファンの家族連れで賑わい、応援に駆け付けてくれた果樹王国ひがしねイメージキャラクターの「タントくん」（「タント」という名は、「たくさん・いっぱい」を意味することから、「東根の果樹の豊富さを表現するもの」として採用されたそうです。）は、りんご、



ラ・フランス、ぶどう、さくらんぼと全身身に着けた出で立ちがとても可愛かったです。そして、お馴染みの全国消防イメージキャラクターの「消太」が登場し、ダニエル・カールさんのオープニングの掛け声で華々しく撮影がスタートしました。

会場内は、36の出展ブースから食欲をそそる香りが漂い、グルメを手に笑顔こぼれる多くの老若男女が会場内の色々なイベントに参加していました。それに、負けまいとダニエル・カールさんが、地元グルメのブースでグルメリポートをする場面もありました。

メインステージ上では、ダニエル・カールさんと開催地消防本部の職員、消防団長が住宅防火に関するトークショーを展開し、会場を盛り上げました。

住宅用防災機器等展示コーナーでは、(一社)日本火災報知機工業会、(一社)日本消火器工業会、(一社)日本消火装置工業会、(公財)日本防災協会、ガス警報器工業会(以下「5団体」という。)が住宅用防災機器等の展示を行い、このほか消防署による防火に関する展示や体験コーナーもあり、特にはしご車の搭乗体験は大変な人気で長い列ができていました。

この番組は、地元の地上波テレビ局テレビユー山形で11月10日(月)に放送されました。

◎千葉県我孫子市消防本部

令和7年11月9日(日)に、千葉県我孫子市我孫子駅前の大型商業施設のエントランスホールで開催された「我孫子市消防フェア」にお邪魔し、実施しました。

この日は、小雨が振るあいにくの天候で、多くの市民の方々に来ていただけるのか心配されましたが、我孫子市防災協会が主催する防火ポスターの受賞者表彰式や我孫子吹奏楽団の軽やかな演奏に誘われ、たくさんの方が来場されました。また、ここでも全国消防イメージキャラクター「消太」と我孫子市消防本部のキャラクター「あびこ たすけ」と「あびこ すくう」が会場内を練り歩き、来場者の皆さんと記念写真を撮るなど大活躍でした。

イベント会場の外には、我孫子市消防本部の救助工作車、化学車、はしご車が展示されており、救助隊員から消防自動車の諸元や積載資器材の機能について説明を受けたダニエルさんは、救助資器材の取り扱い体験やはしご車の運転席に乗込んで、感想を話されていました。

会場のステージでは、ダニエルさんのトークショー「ダニエル・カールの防火防災がんばっぺ!」があり、我孫子市消防本部玉置次長から



の市内における住宅火災への取組についての説明やダニエルさんと消防職員による着衣着火の際にとる行動の実演があり、会場の皆さんから拍手喝采を受けていました。

また、5団体による住宅用防災機器等の展示が行われ、同じ場所では我孫子市消防団女性消防団員による住宅用火災報知器に関するクイズコーナーが開設されていました。親子連れの来場者は、クイズに答えた後に住宅用火災警報器の実物の警報音や連動型住宅用火災警報器を目の前に興味深げな様子が見られました。

この番組は、J:COM東葛・東関東で12月20日（土）、21日（日）に放送されました。

◎愛知県新城市消防本部

令和8年1月18日（日）に、愛知県新城市を流れる豊川に隣接する桜淵公園いこいの広場で開催された「新城消防祭」の会場にお邪魔しました。まず、圧巻なオープニングセレモニーの最初は、名古屋市消防局航空隊が運航を受諾している愛知県防災ヘリコプター「わかしゃち」が澄み切った青空の下会场上空に飛来し、それに続いて、消防出初式・消防団観閲式が開催されました。



20台を超える消防車、約300人のファイヤーファイターと地元の子供たち約50人がお揃いの法被をまとい一緒にパレードする様子に胸が熱くなりました。粛々と祭りが進行していく中、突然、会場内に鳴り響く出場指令に会場は騒然とし赤色回転灯を点灯しサイレンを吹鳴しながら数台の消防自動車やパトカーが会場中央に集結し、新東名高速道路で発生した交通事故現場を想定した訓練が行われました。



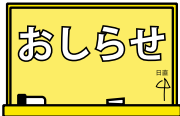
また、救急体験ブースでは、MCの金沢さんがストレッチャーで救急車に収容される体験をしました。予防ブースでは、火災で発生する濃煙を体験できる煙体験ハウスで、新城市女性防火クラブの皆さんの指導の下、ダニエルさんとMCの金沢さんがハウスの中へ進入し、濃煙で視界の悪い中での避難の難しさを体感しました。

住宅用防災機器等展示コーナーでは、家族連れが住宅用消火器を手に取り、操作方法など熱心に聞いている姿も見られました。

この日が、デビューとなりました新城市消防団公認キャラクターの「まもりん」と全

国消防イメージキャラクターの「消太」の周りは、笑顔の子供たちでいっぱいでした。
この番組は、ティーズチャンネル豊橋ケーブルネットワークで放送されます。





「検定時報」の電子媒体での発行について

企画研究部 情報管理課

当協会機関誌「検定時報」は、昭和40年6月に創刊号を発刊以来、令和7年3月（第79号）をもちまして60年が経過いたしました。

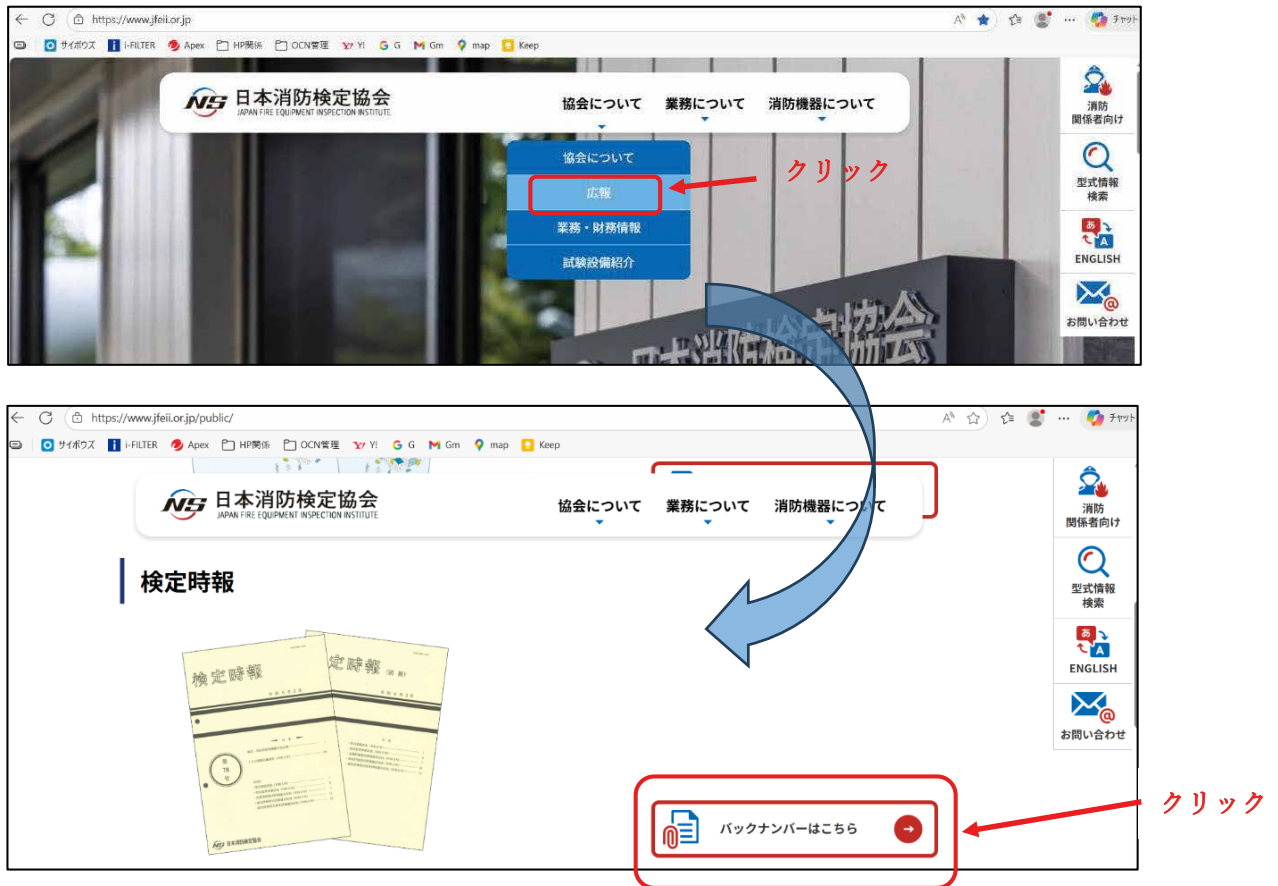
このように歴史ある「検定時報」でございますが、令和8年3月（第80号）からは紙面での印刷及び配布は行わず、電子媒体のみでの発行へと変更させていただくことといたします。

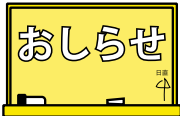
何卒、ご理解をいただき、今後も引き続き、ご愛読くださいますようお願い申し上げます。

なお、検定時報の最新号は、当協会ホームページ（<https://www.jfeii.or.jp/>）のトップページの下記の赤枠内をクリックして、ご確認いただけます。



また、検定時報のバックナンバーは、下図のようにトップページ上部の「協会について」の「広報」に進んでいただき、検定時報の「バックナンバーはこちら」において、ご確認いただけます。どうぞよろしくお願いいたします。





可搬消防ポンプの計画的な更新 についてのお願い

一般社団法人日本消防ポンプ協会
小型部会

[はじめに]

可搬消防ポンプをご利用いただき、有り難うございます。

可搬消防ポンプにつきましては、消火活動上有効な機器として、広くお使いいただいているところです。

しかしながら、可搬消防ポンプの定期的な更新が進んでいないため使用している部品の生産終了等により、修理不能のものが増えている状況が確認できました。

[糸魚川火災では]

平成28年12月22日に発生した新潟県糸魚川市大規模火災では、強風下のもと4万平方メートルもの広範囲に延焼拡大した大規模火災になりました。消防団員を含む隊員等が延べ1,005人、消防ポンプ自動車・可搬消防ポンプ付積載車等が延べ126台出動し、消火活動に従事したと報告されています。

この火災では、可搬消防ポンプ付積載車（消防団）が72台出動したものの、火災時の使用に際し、何らかの不具合が発生した可搬消防ポンプが22台あったことが判っています。

不具合の発生率は約30%で、3台に1台弱が使えなかったこととなります。この不具合について、日本消防ポンプ協会（以下「ポンプ協会」という。）小型部会で状況を確認した結果は次のとおりです。

主な不具合内容)

- ①キャブレターの不具合（気化器）
- ②スパークプラグの不具合（点火プラグ）
- ③燃料の劣化
- ④真空不良（漏気）
- ⑤計器類の不具合（過大圧力による破損）

これらの原因について以下のように推定しました。

推定原因)

- 1 月例点検等の日常点検の不備
- 2 可搬消防ポンプの運用・中継送水操作の習得不足
- 3 使用期間の長い可搬消防ポンプ（20年以上）の部品の劣化による性能不足（部品供給終了も一部に発生）

以上を受け、ポンプ協会小型部会では、次の対応策を推奨しています。

対応策)

- 1 三段階の点検・整備の実施
 - ①使用者による月例点検1～2回／月
点検内容の明確化及び記録簿の整備
 - ②資格者による定期点検1回／年
高圧放水塔の実施による性能確認
 - ③指定整備工場によるオーバーホール1回／3～5年
- 2 可搬消防ポンプの操作方法及び放水手順等の安全講習実施
- 3 機械構造を踏まえた点検・整備の講習実施
- 4 中継送水訓練の実施及び自動中継バルブ等の補助機材の使用推進
- 5 可搬消防ポンプの更新時期の明確化

不具合が発生した22台のうち、14台が部品供給不能対象機であり、そのうち3台については、配備後30年以上も経過しており、更新時期の判断基準の明確化が必要（H29年「糸魚川市大規模火災に関する調査結果について（報告）消防庁防災課宛ポンプ協会報告より）

この報告から、出動した72台の可搬消防ポンプ積載車（以下「積載車」という。）のうち14台が修理不能である「部品供給不能対象機」であったことが判っています。

これは、出動した積載車の約2割になります。普段の点検・整備が出来ていれば、使用可能になった可能性があります。

[消防団に対する聞き取り調査結果（ポンプ協会）]

ポンプ協会小型部会では、令和5年7月から令和6年7月にかけて、全国の消防団に対し、可搬消防ポンプの保有状況について、調査を実施した結果、293団から回答を得ることが出来ました。ご協力いただいた消防団の皆様にお礼申し上げます。

検定協会だより 令和8年3月

その結果、7,215台の可搬消防ポンプの状況が明らかになりました。これは、令和4年の可搬消防ポンプの消防団保有台数48,913台の14.8%にあたります。

調査の結果、293団の可搬消防ポンプのうち、部品供給対応ができないものは1,606台あり、全体の22.3%になります。

是非とも、お使いの可搬消防ポンプが修理可能のものであるのか、ご確認いただくと共に、点検・整備をお願い致します。

【部品供給の状況】

可搬消防ポンプの生産打ち切り後、10年経過した可搬消防ポンプの修理用部品（以下「補用部品」という。）については、製作不能等により供給が出来かねます。

対象の型式に関しましては、以下のパンフレットを作成しており、可搬消防ポンプの販売店等で、配布しています。このパンフレットは、概ね2年に1回更新しています。

また、このパンフレットは、ポンプ協会ホームページでも確認できます。

一般社団法人日本消防ポンプ協会ホームページ

「可搬消防ポンプ補用部品供給についてのお知らせ」。

可搬消防ポンプ補用部品供給につきまして

消防ポンプの特殊性を考慮し補用部品の円滑供給には万全を期しておりますが
生産打ち切り後、10年経過の可搬消防ポンプの補用部品につきましては、製作不能等により供給が出来かねますのでご賢察の上ご容赦の程お願い申し上げます。

2026年1月

型式承認失効ポンプ 293団

	型式	生産年	型式	生産年	型式	生産年
トローバ	V50A(S)	製造41~1号	V75A(S)	製造45~1号	V75B(S)	製造45~1~2号
	V50A(S)	製造41~2号	V75A(S)	製造47~2号	V70A(S)	製造23~2号
	V11(S)	製造44~1号	V11(S)	製造44~2号		
ラビット	P383	製造49~1号	P405A	製造46~1号	P502AS	製造4~4~3号
	P306A	製造41~1号	P406	製造41~1号	P502S	製造4~4~1号
	P405	製造46~2号	P502A	製造42~1~2号		
	P406	製造46~2号				
シハラ	F-150	製造19~1号	TF-10	製造19~2号	TF-35	製造7~3号
	F-230	製造44~1号	TF-15	製造44~1号	TF-35	製造44~3~1号
	F-460	製造44~4号	TF-30	製造49~3号	TF-40	製造4~4~1号

部品供給打ち切り型式 214団

型式	生産年	型式	生産年	型式	生産年
V10C	製造50~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10T	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10U	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10V	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10W	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10X	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10Y	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V10Z	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11A	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11B	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11C	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11T	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11U	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11V	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11W	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11X	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11Y	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V11Z	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12A	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12B	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12C	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12T	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12U	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12V	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12W	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12X	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12Y	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V12Z	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13A	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13B	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13C	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13T	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13U	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13V	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13W	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13X	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13Y	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V13Z	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14A	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14B	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14C	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14T	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14U	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14V	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14W	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14X	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14Y	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V14Z	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15A	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15B	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15C	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15D	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15E	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15F	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15G	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15H	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15I	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15J	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15K	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15L	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15M	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15N	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15O	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15P	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15Q	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15R	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V15S	製造57~4号	V60A(S)	製造52~1号	V60A(S)	製造52~1号
V1					

型式承認失効は、可搬消防ポンプの技術上の基準を定めている「動力消防ポンプの技術上の基準を定める省令」（昭和61年自治省令第24号）の技術基準の一部変更に伴い新基準に適合できないものをいいます。

部品供給打ち切り型式とは、生産を打ち切った後、10年以上が経過し、補用部品の在庫がなくなった可搬消防ポンプをいいます。

補用部品の供給状況について、この表に記載されている承認番号・ポンプ届出番号で（ポンプ）型式に該当する可搬消防ポンプは、既に補用部品の供給が停止しているものとご理解ください。

[消防庁より]

これらの事案を受け、消防庁から以下の通知が発出されています。

- 1 「糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会の検討結果について」（平成29年消防消第117号消防庁長官）

この長官通知では、平成28年12月22日の糸魚川市大規模火災を受け、次の事項について実現可能なものから順次推進することが要望されています。ここでは、可搬消防ポンプに係る内容について抜粋します。

- ・資機材点検・訓練の徹底（第2、(3)、ウ）

可搬消防ポンプをはじめとする消防団の所有する資機材について、点検整備及び取扱い訓練を徹底すること。

- 2 「消防団の所有する可搬ポンプの点検整備の推進について」（令和3年消防地第156号消防庁国民保護・防災部地域防災室長）

この通知では、消防団活動の主要な資機材である可搬ポンプが災害時に機能しない事例が過去に確認されていることを受け、以下による適正な点検整備を計画的に推進することが要望されています。

- ①定期的な点検整備
- ②点検整備を行う消防団員に対する研修等の実施
- ③計画的な更新

各消防団の所有する可搬ポンプやその消耗品等の更新計画を策定し、計画的な更新に努めること。

②の点検整備に係る研修について、一般財団法人日本消防設備安全センターが実施する「可搬消防ポンプ等整備資格者」講習があります。これは、可搬消防ポンプの構造、点検方法等の資格講習になります。可搬消防ポンプの整備については、可搬消防ポン

プの整備資格者が実施する事をお奨め致します。

[まとめ]

可搬消防ポンプをはじめとする消防資機材は、火災を含む災害の際には、生命、身体、財産を守る重要な機器ですが、放置されがちな機器でもあります。

糸魚川市大規模火災で明らかになった不具合

- ①キャブレターの不具合（気化器）
- ②スパークプラグの不具合（点火プラグ）
- ③燃料の劣化
- ④真空不良（漏気）
- ⑤計器類の不具合（過大圧力による破損）

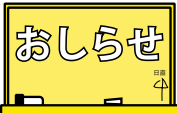
は、どこでも起こりうることを考えられます。

これらについては、定期的な点検と、定期的な実放水を含む訓練により改善されることが期待されます。

皆様がご使用中の可搬消防ポンプについて、ご確認ください。

- ①日常的なメンテナンス（使用者による点検。月に1回程度）
 - ・バッテリーは充電されているか
 - ・燃料は適正か
 - ・ホース、吸管等は正常か等々
- ②定期的な点検・整備を行っているか（可搬消防ポンプ等整備資格者による点検。年に1回以上）
 - ①の点検に加え、
 - ・整備記録はあるか
 - ・高圧放水等による性能確認は正常か等々
- ③指定代理店・サービス店による総合点検を行っているか（3～5年に1回程度）
 - ・指定部品の交換はされているか
 - ・性能は基準どおりか

正常に機能している場合は、使用上問題ありませんが、年式が古くなり、補用部品がなくなった可搬消防ポンプは修理不能となってしまいます。消防庁からの通知にもあるとおり、更新計画を策定いただければと思います。以上、よろしくお願ひ致します。



令和8年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和8年度 消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ (<https://nrifd.fdma.go.jp>) をご覧ください。

【応募区分】

■消防職員・消防団員等の部

- A. 消防防災機器等の開発・改良
- B. 消防防災科学論文
- C. 消防職員による原因調査事例

■一般の部

- D. 消防防災機器等の開発・改良
- E. 消防防災科学論文

【応募受付期間】

令和8年3月23日(月)～4月20日(月)

※4月20日(月) 必着

郵便事情により配達が遅延する場合があります。締切日に間に合うよう、ご投函ください。

【表彰】

優れた作品には、11月に行われる表彰式(東京都内)において、消防庁長官から表彰状及び副賞を授与します。

※令和8年度のポスター※

令和8年度 作品募集!

消防防災科学技術賞

募集期間 令和8年3月23日(月) ~ 4月20日(月) **締切 4月20日 必着!**

【募集区分】

- ▽消防職員・消防団員等の部
 - A. 消防防災機器等の開発・改良
 - B. 消防防災科学論文
 - C. 消防職員による原因調査事例
- ▽一般の部
 - D. 消防防災機器等の開発・改良
 - E. 消防防災科学論文

【表彰】

優れた作品には、令和8年11月に行われる表彰式(東京都内にて開催予定)において消防庁長官から表彰状及び副賞を授与します。

●応募作品は、6月頃に消防研究センターHPに作品名等を公開予定。
●受賞作品は、9月頃に決定・発表の予定です。
●詳細は、消防研究センターホームページをご覧ください。
(URL: <https://nrifd.fdma.go.jp>)

☆お問い合わせ☆
消防庁 消防研究センター 研究企画部 表彰制度事務局
TEL: 0422-44-8331
E-mail: hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

「皆様からのご応募お待ちしております!」

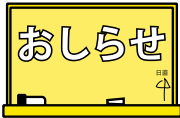
※応募作品は、6月頃に消防研究センターホームページに作品名等を公開予定です。

※受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

問合せ先

消防庁消防研究センター
研究企画部 表彰制度事務局
TEL: 0422-44-8331 (代表)
E-mail: hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

検定協会だより 令和8年3月



職員採用情報 [新卒]

総務部 庶務課



【求む！理系人材】

「日本唯一の検定機関」として、信頼できる消防機器のために貢献！

私たちの身近にある消防機器（感知器、消火器、スプリンクラーヘッド等）は、どれも緊急時には確実に動作しなければならないものばかりです。

これらの消防機器には、日本消防検定協会が、法令で定められた技術基準に基づく試験・検査を実施し、合格した製品すべてに「国家検定合格之証」の銀色の表示が付されています。また、これらの消防用機器の試験等をとおして、火災等の災害からの被害を軽減させることを目的とし、国民生活の“安全・安心”に直結する業務を行っています。

【求める人材】

- ◆ 社会の安全・安心の役に立ちたい人
- ◆ 幅広く学ぶ意欲のある人



【採用情報】

日本消防検定協会ホームページの採用情報をご覧ください。

<https://www.jfeii.or.jp/recruit/>

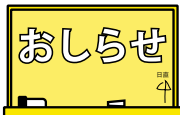
採用情報
QRコード

【担当者からのメッセージ】

当協会は、100人程度の小さな組織ですが、定年まで安定して働いて頂ける環境が整っています。また、完全週休2日制で、福利厚生もあり、レジャーや宿泊の補助を受けることができます。

ぜひ、社会の安全・安心に貢献したい方、幅広く知識を身につけたい方をお待ちしています。

令和6年10月ついに完成！新しい「新中央試験場」で最高の社会人人生スタートを！



有効期限を経過した受託評価品目

【動力消防ポンプ】

試験番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
P0183	H28.2.3	長野県安曇野市明科七貴6043番17	株式会社 シバウラ防災製作所	R8.2.2

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■業界の動き■■

—会議等開催状況—

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会（令和8年2月12日）

- ・重要文化財落雷火災に関する消防庁への報告結果について
- ・防災センター技術基準に係る東京消防庁及び保守協会との打ち合わせ結果について
- ・社会貢献に関する消防庁への報告結果について
- ・住宅用火災警報器・感震ブレーカー設置・維持管理対策会議結果について
- ・運営調整会議の結果について
- ・事務局長会議の結果について

○メンテナンス委員会

（令和8年2月17日）

- ・今年度の活動報告、来年度計画について
- ・点検実務検討小委員会報告
パンフレット「維持管理は防火管理者が主役です」の改訂について
- ・維持運用管理手法小委員会報告
点検実務マニュアル等の改訂について
- ・その他（情報提供）
令和8年春季全国火災予防運動の実施について
住宅用火災警報器の設置状況等調査について

総消事務連絡_基準の特例を適用した検定対象機械器具等及び自主表示対象機械器具等について

令和7年版消防白書の公表

リチウムイオン電池等から出火した火災の調査結果の公表

感震ブレーカーの設置促進に向けた取り組みの強化

光警報関連 消防標識工業会への情報提供（大阪府条例関連）

○技術委員会（令和8年2月19日）

- ・火報試験基準検討小委員会報告
軽微変更事例集についての意見まとめ
- ・感知器の環境特性調査小委員会報告
- ・あり方検討小委員会報告
重要文化財落雷火災について
- ・その他
連動機構装置等自主評定委員会について
検定等技術評議会について

○設備委員会（令和8年2月26日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
国交省 建築設備計画基準及び建築設備設計基準の国交省ヒアリングについて
炎感知器の設置基準、高天井感知器に関する消防庁訪問について
予防事務審査・検査基準の改訂案に

協会通信

関する東京消防庁訪問について

日本消防標識工業会への光警報装置に関する情報提供について

IP化に伴う火災通報装置の各社施工等課題確認について

・工事基準書改訂小委員会報告

工事基準書ハンドブックの改訂について

・その他（情報提供）

令和8年春季全国火災予防運動の実施について

総消事務連絡_基準の特例を適用した検定対象機械器具等及び自主表示対象機械器具等について

R7年度消防庁補正予算、R8年度消防庁予算案及びR8年度の消防防災に関する地方財政措置の見通し等を踏まえた留意事項について

令和7年版消防白書の公表

令和8年春の火災予防運動ポスターが完成

○システム企画委員会

（令和8年2月27日）

・火報企画検討小委員会報告

防災センターの技術基準改定について

防災センター基準改正_質疑回答について

防災センター基準改定案QA4_(回答)について

火災通報装置に係る協力要請について

ワイヤレス固定電話の試験結果について

課題に関する確認結果について

・あり方検討小委員会報告

重要文化財落雷火災について

○住宅防火推進委員会

（令和8年2月25日）

・交換推進WG報告

・住宅用火災警報器検定申請数について

・お客様電話相談室受付結果について

・令和7年度CATV等事業（愛知県新城市）報告について

・令和8年春季全国火災予防運動の実施について

・令和8年春季全国火災予防運動の実施について

・住警器実態調査ニュースリリース報告

・その他

X掲載報告（着ぐるみ活動含む）について

政府広報オンラインの紹介

音声広報CD「明日への声」令和8年（2026年）1月発行

ホームページ警報器が鳴った時のメーカー別の対処変更箇所更新

協会通信

検定協会だより 令和8年3月

協会通信

◆ (一社) 日本消火器工業会◆

○第11回 企業委員会

(令和8年2月5日)

- ・令和7年度1月消火器等の検定申請・回収状況
- ・社会貢献事業について
- ・工業会会長表彰等について
- ・事務局長会議報告
- ・消火器リサイクルセンターからの報告

○第9回 技術委員会

(令和8年2月13日)

- ・リチウムイオン蓄電池火災用の消火器について
- ・労働安全衛生法について
- ・その他

○第6回 理事会・総務合同会議

(令和8年2月17日)

- ・令和7年度1月消火器等の検定申請・回収状況
- ・令和7年度4～1月収支報告
- ・機器協会事務局長会議報告
- ・令和7年度決算見込み、令和8年度予算(案)について
- ・令和8年度事業計画(案)について
- ・令和8年度社会貢献事業について
- ・表彰推薦者上申について
- ・新規に入会希望会社について

◆ (一社) 日本消火装置工業会◆

○第462回「技術委員会」

(令和8年2月6日 書面会議)

- ・第一部会、第二部会及び第三部会活動報告について
- ・建築設備計画基準・建築設備設計基準(令和6年版)改定意見について
- ・JIS B 2301と2302の改正原案作成委員会について
- ・CLT建築実証支援事業における「検討委員会」について
- ・消火設備の奏功事例開示について
- ・その他

○第241回「第一部技術分科会」

(令和8年2月20日 日本消火装置工業会)

- ・消防用設備等の設置・維持のあり方に関する検討部会について
- ・労安法改正について
- ・2026年度、分科会開催日程について
- ・その他

○第239回「第二部技術分科会」

(令和8年2月19日 日本消火装置工業会)

- ・2026年度、分科会開催日程について
- ・廃棄処理施設のPFOS追加について
- ・リスクアセスメントリーフレットについて
- ・その他

協会通信

協会通信

○第220回「第三部技術分科会」

(令和8年2月17日 日本消火装置工業会)

- ・消火設備の維持管理に関するご提案資料の改訂検討依頼について
- ・ガス消火設備の法令・基準等見直し検討について
- ・2026年度、分科会開催日程について
- ・その他

◆(一社)日本消防ポンプ協会◆

○大型技術委員会

(2026年2月13日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・品質評価細則見直しについて
- ・補助規格の見直しについて
- ・その他

○大型技術委員会・検定協会合同会議

(2026年2月13日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・今後の品質評価細則見直しについて
- ・その他

○総務委員会

(2026年2月17日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・事務局長会議等報告について
- ・銘板の値上げについて
- ・「全国消防機器協会60年のあゆみ」への寄稿について

- ・令和8年度重点業務、トピックスについて
- ・第64期定時総会スケジュールについて
- ・令和8年度第1回理事会について
- ・その他

○小型技術委員会

(2026年2月18日 日本消防ポンプ協会会議室)

- ・品質評価細則見直しについて
- ・可搬消防ポンプ等整備資格者講習関連について
- ・その他

協会通信

検定協会だより 令和8年3月

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型式番号	申請者	型 式	承認年月日
小型消火器	消第 2026～1号	日本ドライケミカル株式会社	住宅用強化液 0.9l (蓄圧式、アルミニウム製)	R8.1.26
泡消火薬剤	泡第 2026～1号	モリタ宮田工業株式会社	合成界面活性剤泡 3% (-5℃～+30℃)	R8.1.9
	泡第 2026～2号	第一化成産業株式会社	たん白泡 3% (-10℃～+30℃)	R8.1.19
	泡第 2026～3号	日本ドライケミカル株式会社	たん白泡 3% (-10℃～+30℃)	R8.1.28
差動式スポット型 感知器 (試験機能付)	感第 2026～1号	ホーチキ株式会社	2種 (20V、12mA)、非防水型、普通型、再成型	R8.1.9
	感第 2026～2号	ホーチキ株式会社	2種 (20V、12mA)、防水型、普通型、再成型	R8.1.9
定温式スポット型 感知器 (試験機能付)	感第 2026～3号	ホーチキ株式会社	特種 (20V、12mA)・公称作動温度60℃、非防水型、普通型、再成型	R8.1.9
	感第 2026～4号	ホーチキ株式会社	特種 (20V、12mA)・公称作動温度60℃、防水型、普通型、再成型	R8.1.9
	感第 2026～5号	ホーチキ株式会社	1種 (20V、12mA)・公称作動温度70℃、防水型、普通型、再成型	R8.1.9
閉鎖型 スプリンクラーヘッド	ス第 2026～1号	株式会社立売堀製作所	1種可溶片型C72、呼称15 (標準r2.6、下向き)	R8.1.7
	ス第 2026～2号	株式会社立売堀製作所	1種可溶片型C96、呼称15 (標準r2.6、下向き)	R8.1.7

型式変更承認

種 別	型式番号	申請者	型 式	承認年月日
中継器 (自動試験機能付)	中第 18～1～2号	ホーチキ株式会社	直流39.5V、外部配線抵抗50Ω	R8.1.21

品質評価 型式評価

種 別	型式番号	依頼者	型 式	承認年月日
蓄圧式消火器用指示 圧力計	品評圧第 2026～1号	モリタ宮田工業株式会社	25mm、スパイラルブルドン管式 (SUS) (0.7～0.98MPa)	R8.2.6
動力消防ポンプ	P180V	株式会社モリタ	消防ポンプ自動車、A-1、MGV6500A	R8.1.27

認定評価 型式変更評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
特定駐車場用泡消火 設備・開放型泡水溶 液ヘッド	認評駐開第 27~3~1号	能美防災株式会社	呼称15 (標準r2.3、上向き、発泡倍率5倍 未満)	R8.1.5
	認評駐開第 27~4~1号	能美防災株式会社	呼称15 (標準r2.3、下向き、発泡倍率5倍 未満)	R8.1.5
	認評駐開第 27~5~1号	ニッタン株式会社	呼称15 (標準r2.3、上向き、発泡倍率5倍 未満)	R8.1.5
	認評駐開第 27~6~1号	ニッタン株式会社	呼称15 (標準r2.3、下向き、発泡倍率5倍 未満)	R8.1.5
特定駐車場用泡消火 設備・閉鎖型泡水溶 液ヘッド	認評駐閉第 27~5~1号	能美防災株式会社	可溶片型C72、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、上向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~6~1号	能美防災株式会社	可溶片型C96、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、上向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~7~1号	能美防災株式会社	可溶片型C72、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、下向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~8~1号	能美防災株式会社	可溶片型C96、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、下向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~9~1号	ニッタン株式会社	可溶片型C72、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、上向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~10~1号	ニッタン株式会社	可溶片型C96、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、上向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~11~1号	ニッタン株式会社	可溶片型C72、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、下向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5
	認評駐閉第 27~12~1号	ニッタン株式会社	可溶片型C96、感知範囲r2.3、呼称15 (標 準r2.3、下向き、発泡倍率5倍未満)	R8.1.5

検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定				
			申請件数	申請個数	対前年 同比(%)	対前年 累計(%)	
消火器	大型	0	0	16	3,497	79.1	77.7
	小型	5	0	67	552,002	99.0	98.7
消火器用消火薬剤	大型用	0		2	200	118.3	88.6
	小型用			13	7,037	146.1	133.9
泡消火薬剤		1		22	98,000	45.8	103.2
感知器	差動式スポット型	0	2	34	229,546	78.7	110.4
	差動式分布型	0	0	11	5,525	107.8	119.1
	補償式スポット型	0	0	0	0	-	-
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	100.0
	定温式スポット型	0	3	35	115,285	91.1	104.7
	熱アナログ式スポット型	0	0	9	4,921	73.7	121.6
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	-	-
	光電式スポット型	4	1	42	117,842	133.1	111.8
	光電アナログ式スポット型	2	0	20	30,492	50.0	108.3
	光電式分離型	0	0	3	65	19.7	69.6
	光電アナログ式分離型	0	0	2	204	142.7	122.5
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	3.4
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	1	200	皆増	175.5
	赤外線式スポット型	0	0	7	922	111.1	120.0
紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	1	277	100.0	62.5	
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	9	28,315	135.5	102.1
	P型2級	0	0	9	5,080	157.2	100.4
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		0	0	79	40,426	83.1	107.0
受信機	P型1級	0	0	40	2,075	76.3	96.8
	P型2級	0	1	15	1,913	33.7	58.8
	P型3級	0	0	1	20	皆増	57.3
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	4	117	92.9	114.4
	G型	0	0	7	10	76.9	78.0
	GP型1級	0	0	8	16	48.5	83.2
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	7	43,742	108.9	104.3
GR型	0	0	12	126	47.2	107.8	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	0	6	30,980	44.7	74.0
流水検知装置		0	0	11	1,014	50.1	102.3
一斉開放弁		0	0	15	2,800	76.8	119.1
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	1	3	60.0	81.1
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	24	14,374	100.7	102.2
緩降機		0	0	3	555	104.7	97.7
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	17	69,532	93.1	123.5
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	1	29	414,942	110.8	112.7
合計		12	8	582	1,822,055	90.1	104.5

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-
音響装置	0	0	0	2	310	皆増	725.6
予備電源	0	0	0	3	22,778	123.1	94.7
外部試験器	1	0	0	5	164	86.3	109.6
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	1	1,345	225.3	188.7
	受信装置等	0	0	0	0	-	皆減
光警報装置		0	0	0	0	皆減	95.5
	光警報制御装置	0	0	0	0	皆減	126.7
屋外警報装置		0	0	0	0	-	-
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	3	23,400	292.5	132.1
蓄圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	7	579,000	103.0	102.5
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	6	2,992	127.3	108.4
消火設備用消火薬剤	0	0	0	5	53,184	68.6	93.6
住宅用スプリンクラー設備	0	0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	-	-
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	1	0	48	65	101.6	98.6
	可搬消防ポンプ	0	3	0	0	皆減	89.6
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	2	270	50.9	105.2
	呼称65以下のもの	0	0	2	60	18.8	68.2
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	3	23,278	125.3	113.2
	平 40以下のもの	0	0	10	60,607	191.6	121.0
	濡れ	0	0	0	0	-	-
	保形	0	0	3	6,500	282.6	125.4
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	59.5
消防用結合金具	差込式	0	0	3	83,300	113.1	112.1
	ねじ式	0	0	17	12,254	83.0	103.8
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	-
	同一形状	0	0	4	452	297.4	338.2
漏電火災警報器	変流器	0	2	16	5,667	142.2	121.9
	受信機	0	0	9	5,651	286.1	123.4
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	2	61,680	212.8	126.3
特殊消防ポンプ自動車	7	0	0	21	22	110.0	108.8
特殊消防自動車				5	5	250.0	193.3
可搬消防ポンプ積載車	0	0	0	2	2	33.3	92.3
ホースレイヤー	0	0	3	0	0	皆減	74.4
消防用積載はしご	0	0	0	21	189	1,111.8	70.5
消防用接続器具	0	0	0	12	2,560	73.4	108.7
品質評価業務				確認評価			
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
外部試験器の校正				8	29	74.4	122.5
オーバーホール等整備				5	5	100.0	102.9

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。
 ※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。
 ※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

受託評価等依頼一覧表

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
地区音響装置	0	0	0	15	18,594	60.3	105.1	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	0	29	2,983	65.2	112.8
	放送設備	0	0	5	52	39,154	47.6	94.8
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-
	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	1	7	1,580	95.4	99.7
	2号消火栓	0	0	1	3	860	183.0	86.9
	広範囲型2号消火栓	0	0	1	5	1,260	157.5	113.4
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	0	17	5,362	94.6	81.8
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	8	42,860	70.9	113.3	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	7	4,900	51.3	45.8	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備(評価)	1							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	8	8	80.0	85.6	
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	1	1	0	1	8	12,007	92.2	113.3
受託試験及びその他の評価	依頼件数				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)
受託試験(契約等)	1							
受託試験(その他の契約等)					0	0	-	150.0
評価依頼(基準の特例等)	0							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

春分の日(3月20日)を迎え、今年も早や三月(みつき)を過ぎようとしています。

来年の春分の日、官報広告「令和9年(2027)暦要項」によると3月21日です(令和8年2月2日付け官報 本紙第1638号24ページ)。地球の軌道計算から求められるのですが、なんかすごいですね。しかし、翌年の祝日などはこの広告で正式に確定のはずですが、手帳に収録されているカレンダーにはすでに印刷されています。

さて、今冬期は大規模な林野火災の発生が多く報道されています。例年にない小雨と乾燥から、鎮圧鎮火には多くの時間を要し、対応する方々の負担を強いてしまいます。総務省消防庁は気象庁、林野庁との連名で、1月22日付けで「林野火災に注意し

てください!—東日本太平洋側や西日本では、顕著な少雨となっている所があります—との報道資料を発表しています。令和7年の消防白書の林野火災の資料からも冬期に全体の7割以上の発生があることがわかります。まだまだ油断ができません。

さて、今月号では、相模原市消防局長の三澤誠様には巻頭のことばを、消防庁消防研究センターからは「令和8年度消防防災科学技術賞の作品募集」のご寄稿をいただきました。誠にありがとうございます。

4月号では、消防大学校長の石山英顕様には巻頭のことばを、当協会からは「令和8年度日本消防検定協会予算概要」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例(成功例又は失敗例)

連絡先 東京都調布市深大寺東町4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471(直通)
E-mail kikaku@jfeii.or.jp

発行 日本消防検定協会

<https://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-12-7 清和梅田ビル4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館11階
TEL 03-5962-8901(代) FAX 03-5962-8905

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415



日本消防検定協会